

お誕生日お祝い

内畑 瑛造 会員

80歳傘寿になりました。好きな詩に「父ありて我が強さあり、母ありて我が優しさあり、父母の姿いつも忘れず我が心の支え」これからは元気で晩年を過ごしたいと思います。

田原 久一 会員

還暦プラス1で61歳になりました。これからも健康で過ごして行きたいと思いますので、皆さん宜しく願います。



おめでとうございます!



ありがとうございました

- 谷口 文利さん 尾上様宜しくお願いします。
- 笹島 良雄さん 家内の誕生日祝いで有難う御座いました。昨年頂いた花が今でもキレイに咲いています。家内は来年には3本とも咲かせたいと言っています。
- 堀岡 忠男さん 三毛理一郎様R.C.在籍50年おめでとう御座います。益々の御活躍、御健勝御祈り申し上げます。
- 岸裏 廣澄さん 尾上さん本日卓話よろしく願います。
- 後 亮さん 妻の誕生日に綺麗なお花をありがとうございました。
- 後 亮さん 来年の3月、2人目の子供が生まれることになりました。(忙しい中、努力しました。笑)
- 島 公造さん 尾上さん本日卓話ありがとうございました。
- 山本 進三さん ・先日北クラブとの合同例会ではありがとうございました。
・尾上さま、本日卓話よろしく願致します。
- 乾 敦雄さん 本日もよろしく願います。
- 阪神タイガース応援団一同

〔お誕生日お祝い〕

- 内畑 瑛造さん 傘寿を迎え皆様方に感謝と元気に育ててくれた両親に感謝。
- 田原 久一さん お誕生日祝いを頂いて。

本日の累計 49,500円(計10名 12件)(お誕生日お祝い 133,000円 皆出席表彰 10,000円 その他 660,610円 累計額 803,610円)

本日の例会

9月27日(木)

- 卓話「世界のあちこちを歩いて」
博永(株)会長 永岡 潤介さん
- ピアノ演奏
美女と野獣(Alan Menken)
ホール・ニュー・ワールド(Alan Menken) 中井 利枝さん

次回の例会

10月4日(木)

- クラブフォーラム「職業奉仕」

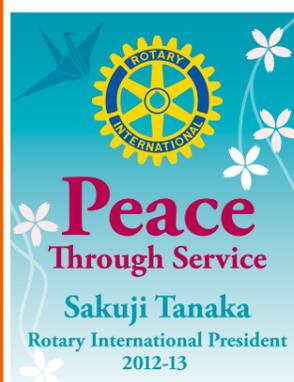
前回の例会

9月20日(木)

- 卓話「“美味しい水”のふるさとの風景」
奈良県川上村 森と水の源流館
公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
事務局 尾上 忠大さん
- ロータリーソング
山東 勝彦 ソング委員長
「四つのテスト」
- ビジター紹介
榎畑 友洋 親睦委員長
和歌山中R.C. 守安 精一郎さん

メイキャップ情報 (敬称略)

- 9月13日(木) 和歌山城南R.C. 角谷 芳伸
- 9月14日(金) 和歌山南R.C. 乾 敦雄、黒田 純一
- 9月22日(土) クラブ委員長会議 亀田 直紀
- 9月24日(月) 和歌山北R.C. 村田 昌之



‘確信と絆で作ろう、希望の未来へ!! 今日より一歩’

「奉仕を通じて平和を」

国際ロータリー 第2640地区 **和歌山東ロータリークラブ**
URL <http://www.werc.jp> E-mail info@werc.jp

2012年9月27日(木)
週報 / VOL.54 No.12(通巻2558)

会長報告

島 公造 会長



みなさん、こんにちは。和歌山中クラブの守安さんようこそ我がクラブに、メイキャップに有り難うございます、どうぞごゆっくり。先週月曜日北クラブさんとの合同例会から10日間ですが、今日の例会まではすごく長かったように思います。尖閣問題に事を発して、今中国ではひどいジャパンパッシング、腹を立てたり、いろいろ考えたりする人が多いと思いますが感情をちょっと横に置いておいて、こんな時不謹慎と言われましても、私共の得意先が殆ど中国に販売している企業が多いので、経済活動において非常に不安を持っています。リーマンショック以来考えられない国際問題に私たち小さな企業者も振り回されるようになりました。やっぱり国がしっかりしないせいだと思う今日この頃でございます。

幹事報告

山本 進三 幹事



- ・本年度のポケット名簿ができましたのでお配りしています。
- ・本日卓話いただく公益財団法人吉野川紀の川源流物語 事務局 尾上さまより、クラブにお菓子をいただきました。ありがとうございました。
- ・国際ロータリー第2640地区より下記の案内が来ております。
- ・インターアクトクラブ国際交流親睦会のご案内。
- ・地区大会(2日目)「お楽しみ抽選会」のご案内。

卓話

“美味しい水”のふるさとの風景

奈良県川上村 森と水の源流館 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 尾上 忠大 事務局長



水の届くところのみなさんと 「和歌山市民の森づくり」

奈良県川上村は、紀の川(吉野川)源流に位置します。そこに生まれた水は、136kmの距離を旅して、和歌山市の海へと流れ出ます。和歌山市では、川上村と2003年に「水源地保護に関する協定」を締結。「和歌山市民の森づくり」を通じて、水源環境の保全に努めていただいています。現在3haの森の管理と、年に2回、市民の森づくり体験会を実施しています。まずは、この取り組みについてビデオ(約9分)で紹介いたします。

水源地の村かわかみ

川上村の東は大台ヶ原から連なる台高山脈で三重県と接し、北は吉野山、大峯連山に囲まれ、村の中心を吉野川が流れます。大台ヶ原は、日本でも有数の多雨地帯で年間4,000ミリを超え、比較的温暖な気候がスギ、ヒノ

出席報告

会員数 44名(内出席規定適用免除会員16名) 山東 勝彦 出席委員長

9月20日(本 日)	29名	80.6%	9月6日(メイキャップ後)	34名	89.5%	(欠席4名)
------------	-----	-------	---------------	-----	-------	--------

皆さん、出席してください。

キの生育に適し、吉野スギの主産地として栄えてきました。

林業の歴史は古く、500年近いと言われていています。明治の始めに活躍された土倉庄三郎翁は、林業の技術を体系的にまとめ、蜜植式の造林方法を吉野林業として確立し、全国にも植林を広められました。そして昭和34年に襲来した伊勢湾台風を契機に大滝ダムの建設事業が始まりました。「ダムで栄えた村はない」。国内各地でのダム事業をとらえて、このように言われました。しかしこの言葉が、当時ほかにはない、独自の特色をもった村づくりへの挑戦につながったのでしょうか。

川のはじまるところから 「水源地の村づくり」と『川上宣言』

村は、源流の村が自らその役割を果たしていこうと、平成6年から「樹と水と人の共生」をキャッチフレーズに「水源地の村づくり」を進めています。その役割を分かりやすく伝えるために「川上宣言」を発信しました。第1番目には、「かけがえのない水がつくられる場に住むものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。」と謳います。

水は、森で生まれる。だから森を守る。

源流部には原生林が残されてきました。奥地であることで木を伐採し、スギやヒノキを植えるに至らなかった面もあると思いますが、豊かな水を守ること、水害を起こさないために水源の森を守るといった先人たちの知恵が働いたものと考えています。森林を守ることが水を守ることにつながることを十分理解していたといえます。

村では、平成11年から源流部の三之公地区に広がる原生林約740haを購入し「吉野川源流－水源地の森」として保全し、将来に向けて残そうとしています。

川でつながる、みなさんといっしょに

「森と水の源流館」では、この「水源地の森」を拠点とした環境教育を目的として体験活動を展開し、森と水の大切さを伝えています。おかげさまで今年10周年を迎えました。

「下流にはいつもきれいな水を流します」は源流だけで実現するものではありません。流域のみなさんといっしょにバトンを手渡すように、きれいな水を順に下流域へと届けられるよう、一緒に活動を続けていくことを願っています。



吉野川(奈良県)紀の川(和歌山県)という
2つの名をもつ、1本の川の源流。



「川上宣言」

- 一、私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 一、私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 一、私たち川上は、都市や平野部の人たちにも川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 一、私たち川上は、これから育つ子供たちが、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- 一、私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

会員会社便り

研究と開発力で躍進する「アイワ技研」

山野 武彦 会員(アイワ技研工業(株) 社長)



業界紙化学工業日報9月3日(月)に「アイワ技研」製、新鋭設備を大手メーカーに導入した記事が掲載されました。

新鋭設備を導入したのは、各種溶剤ブレンドリーパックの最大手の大伸化学(株)の程谷工場。この設備は新タイプのダンクシュート充填システムラインで、同社はこの新ラインにより、従来の4倍の生産増、多品種小ロットの対応力増、原料ロス減、コンタミの減少、生産性の向上等々数多くのメリットが見込まれ競争力の強化に寄与すると期待されています。

この新鋭システムの開発に成功した「アイワ技研」の技術力はユーザーのニーズを適確に把握し、新設備に対応、成功させました。



溶剤充填機



溶剤攪拌機・検査装置



キャッパー

新システムと従来システムの違い

従来システム

必要溶剤 → 攪拌槽 → ミキシンク → 納入容器 → 槽洗浄

新システム

必要溶剤 → 10種の注入ライン → 納入容器注入 → 容器内で攪拌
受注出荷量分限定 → 自動検品分析

ポイントは、従来の攪拌槽システムを止め、必要溶剤を受注量のみそれぞれの注入パイプより最終容器に注入し、攪拌は最終容器内で行い製品化する。またライン内に最終検査検品システムも設置し、生産性を高めている。

以上の開発により、前述の数多くのメリットを生み出した。

文責 笹島